学会ホームページ http://www.jaass.jp/

# 日本福祉教育・ボランティア学習学会 学会ニュース

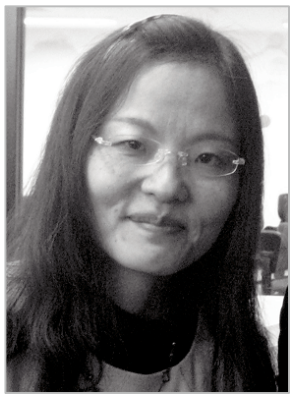
Japan Academic Association of Socio-education and Service Learning

No.57
2015年6月11日
発行

発行人：松岡廣路　編集委員：長沼　豊　菱沼幹男　熊谷紀良
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町３番27号 ロリエ市ヶ谷３階
TEL.03-5227-7101　FAX.03-5227-7102　Eメール jimukyoku@jaass.jp

## 実践と研究とをつなぐ営みを

副会長　**河 村 美 穂**（埼玉大学）



福祉教育･ボランティア学習学会は昨年の20周年の成人式をへて大人の歩みを始めました。私は、残念ながら20年前にこの学会が産声を上げた当時のことを知りません。

ちょうど2000年の春､高校の教え子だった卒業生を介して原田正樹さんに出会い、この学会や福祉教育・ボランティア学習を研究している仲間に出会うことができました。この学会で出会う仲間たちは、それぞれがそれまでの経験を胸に秘め、熱い想いをもって実践し、研究している人たちでした。そしてそれぞれの実践や研究を大切に聴きあう仲間でもありました。実践と研究はともすれば対立的な関係や共存することの困難が論じられますが、本来は実践のために研究があり、研究の成果は必ず私たちの幸せな日常生活へとつながっていくものであると思います。

このような実践と研究のつながりは、社会福祉協議会職員である仲間たちとの研究会を通してより実感することになりました。研究会で報告される事例は私の想像を越えるものでした。ときに悲惨な事例に押し潰されそうになりながら、仲間たちは自らの実践を振り返り、少しでも前に進もうと頑張っていました。数多くの事例に丁寧に向き合ったからこその実践知も有していました。この研究を通して「すべての人が福祉の主体となることを目指すというよりも、その人が望むその人らしい幸せを追求することを福祉教育・ボランティア学習の最終目標とする」という知見が導き出されました。地域に暮らす人たちがどのような問題に直面しているのか、どのような経験を経てどのように変容するのかを身をもって知っている仲間たちだからこそ導き出した知見でした。

これらは実践の場での感覚を大切にしながら言語化し、研究的な視点で実践を捉え直して発見したことなのだと思います。

本学会の目指してきた実践と研究との往還は、混沌とした実践の中から真理を見出すこと、多様な人が関わるダイナミックな実践を読みとくこと、当事者が当たり前と思っている実践の中にある重要な要素を見出すこと、実践を分析的な視点で捉え直すこと、特定の問題に焦点化した実践を組み立てることなど、福祉教育・ボランティア学習の実践の推進に資する展開が期待できると考えます。

成人として歩みだしたところですが、実践・研究にかかわる多くの会員が、自らの実践・研究を基盤としながら実践と研究をつなぐ営みを創り出す、そのような学会でありたいと思います。